

乳幼児愛護週間に就て

財團
法人 中央社會事業協會總務部長 原

泰

一

新緑の風薫る五月五日が巡つて來た。此の日の前後一週間を期して全國的に乳幼児愛護週間が催される。

私は幼かりし頃に端午の節句を待ち望んだと同じ心の躍動を感じながら此の週間を迎へるのである。

此の週間こそ全国各地に於て子供を持つ両親に「あなた方の子供を強く、正しく育てあげるやう出来るだけ注意して下さい」と呼びかけ、また廣く一般の人々に、「我が子を強く、正しく育てたいと心願つても、時々物事に餘裕がないため、それが出来ない親たちに、あなた方の力を藉して下さい」と共存共榮の心呼び醒ます日である。殊に今年、皇太子殿下の御降誕に、國民舉つて歡喜して居る折柄、過般 皇室 に於かれまして、廣くその慶びを國民に頒ち給ふ難有き思召を以て、母性並に兒童愛護の資として多額の御内帑金を御下賜に相成り、一層感激を深めて

居る際、第八回全國乳幼児愛護週間を迎へることは特に意義の深きを憶へるのである。

*

我國の子供の出産数は歐米諸列強に比較して非常に高率を示して居り、誠に我國々運の隆祥を物語る瑞徴とも見ることが出来るのであるが、その一面に於て乳児の死亡する率も極めて多く、歐米諸文明國に比して最も劣つて居る現狀である。即ち昭和七年の調査に依るに、千人の出生に對して乳児の死亡する者百十八人の多きを示して居るのに、之を他の諸文明國に就て見るに、英國に於ては六十五人、佛蘭西に於ては七十六人、獨逸に於ては八十三人、和蘭に於ては五十人と言ふ低率を示して居ることは、種々複雑なる原因による事は勿論ではあるが、その主たる原因は歐米諸國に比較して我國に於ける妊産婦並に乳児の衛生上の注

意が低劣であり且つ之に對する保護施設が不備である言ふことを示してゐるものであつて、國家として又國民として誠に悲しむべく、憂慮すべき重大問題である。

*

人類文化の發展は、無限より無限に至る時の流れの上から次へ生れ出づる新しき生命を、より良き状態に導き育て、行く事に依つて望まれるのであつて、その導き育てる仕事こそ、親の義務であり、又國家社會の務でもあるのである。幸に我國民は古來より兒童を愛撫することは外國人も羨む程濃かなものがある。然るにも拘らずその子供達の死亡する數が斯くも多數であると言ふ事は返すくも遺憾千萬である。就ては我々は深くこの點に想を巡らし、その原因を探索し、その對策、施設を講じなければならぬのである。

*

試みに我國乳兒死亡の原因を見るに、その最高位を占むるものは營養不良、發育不全、生活力薄弱等の先天性弱質を云はるゝものであり、次ぎは肺炎及氣管枝炎等の呼吸器疾患下痢腸炎等を主とする消化器系統の病氣が、多數を占

めて居るのであつて、その依つて來るところは第一に親の育兒知識の不充分を云ふことに歸すべきであるを考へられるのである。所謂盲目的愛を云ふのはこの科學的知識の伴はない愛撫であると思ふにつけても、從來我國民のその子供に對する愛撫が徒らにこの盲目的愛撫に過ぎなかつたのではなからうか疑懼せらるゝのである。その二は母性並に兒童保護の施設が不完全であることであるが、歐米に於ける乳兒死亡數の低減は多く是等小兒及妊産婦の保健施設の完成に依つて、漸次その目的を達しつゝある例に依つても明らかなる處であるが、之を我國に就いて見ると、最近兒童保護施設が段々増加發展件つて、乳兒死亡率は漸次低減の趨勢を辿りつゝある事例に依つても明かである。

*

更に乳兒の死亡は單に乳兒出生後の諸原因のみならず、既に母の胎内に在る時に於て、妊婦の環境、遺傳、健康状態等の如何に依つて多大の影響を蒙るものであるから、母性の保護を兒童の保護とは分離して考へることが出來ぬのであつて、子供の保護は母親の保護が完うせられて初めて

その目的を達することが出来る言ひ得るのである。

然るに現代の社會に於ては、財界の不況、人口の過剩等の社會的刺戟によつて、多數の婦人を職業戦線に驅逐し、會社、銀行、工場、鑛山、其他各種の職場に於て勞働に従事する婦人の數は年々増加の傾向にあるのである。勿論、鑛業法、工場法、その他の法律に依り、或る程度の保護規定が存在して是等勞働婦人のために備へる處絶無き云ふには非ざるも、母性竝に兒童の保護法規としては甚だ不充分なものである。當局竝に國民は此の際一層社會の情勢を正確に認識して確固たる母性竝に乳兒の保護法制の制定せられんことを祈つて已まないのである。

*

殊に最近の特殊傾向として見逃し得ない事は、農村の乳兒死亡率が都市のそれに比較して依然高率を示しつゝあることである。輓近經濟界の不況に伴ひ農村の疲弊の甚しいことは、今更申すまでもないのであるが、この荒れ果てた農村に生れ、農村に育つ兒輩竝にそれらの母親の保護こそ、農村文化再建設の基礎工作とも申すべきであらう。物を奪はれ、人を奪はれ、更に最愛の幼き者までも奪はれんことは、

てゐる農村へ母性ミ乳兒の保護の施設を與へる事は、刻下の急務中の急務であるを思料する。

中央社會事業協會に於ては全國兒童保護事業會議の決議により昭和二年我國乳幼兒死亡率の重き遺憾なる實情に鑑み、その低減を圖る爲め、育兒知識の徹底ミ妊産婦竝に小兒保健施設の普及を目的として、全國乳幼兒愛護週間を主唱開催してより茲に八年、その間不尠官民の御協力を得て着々その効果を擧げ、當時は兒童保護施設八百餘りでありしものが、最近には二千に垂んするの狀態に進み、從て乳兒の死亡率の如きも當時出生一〇〇につき一四・二でありしものが、昭和七年には一一・八に減少するに至つて居ることは眞に喜びに堪へない處である。

然しこれを對外的に見るならば、先進諸文明國に比較して、未だ及ばざること遠く、又國內的に見ても農村竝に都市に於ける乳兒死亡率の懸隔のあること等を考へるならば、今後國民竝に當局者は、將來社會の各層に於て充分なる活動を爲し得る數多の健全なる國家成年を作り出す努力の第一歩とも申すべき乳幼兒愛護事業に一層の努力ミ研究ミを惜んではならぬと思ふのである。